

新たに巨大魚の化石を発見！

定期的に開催されている道の駅「明恵ふるさと館」主催の化石発掘体験は、ワカヤマソウリユウが発見された現地近くの露頭で発掘を行っており、そこでは多くの化石が発見されています。

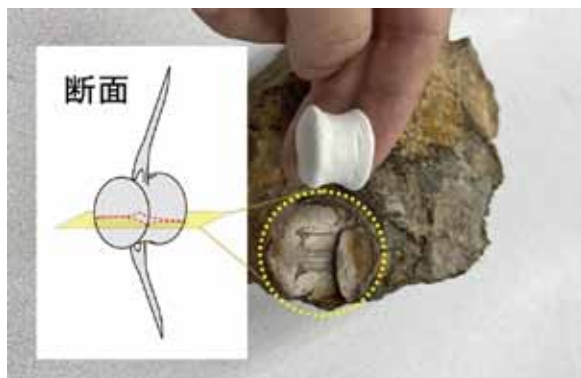
令和7年（2025年）の発掘体験では、下の写真のような脊椎動物の化石が新たに発見されました。見えている鼓のつづみような形をした骨の断面は、魚類の背骨と考えられ、かなり大きな個体のものです。ワカヤマソウリユウが発見された地層からは、これまでに小型魚のエンコドゥス類の化石などが見つかっていましたが、これほど大きい魚類の化石は初めての発見となります。

●白亜紀の魚類

白亜紀の後期には、大型の魚類が世界中に生息しており、成魚で5メートルを超えるシファクティヌスなどが有名です。今回見つかった背骨の化石は、直径が3センチメートルくらいの大きさがあり、シファクティヌスに匹敵するくらいの大きさの魚類と考えられます。

●巨大な生き物が何種類もいた古代の海

鳥屋城山の白亜紀の地層からは、全長6メートルを超えるワカヤマソウリユウだけではなく、新たに発見された巨大魚、そして4メートルほどのカグラザメの歯などの化石が見つかっています。このことは、巨大な生物が何種類も生息できる、豊かな生態系を持つ海が広がっていたことを示しています。



新たに発見された巨大魚の化石



シファクティヌス（イラスト／徳川広和）



エンコドゥス類（イラスト／Takumi）